



GEOC森里川海シリーズ企画
里とともにある日本の農とゆたかな食

里と共生する日本の農

2020年2月5日

東アジア農業遺産学会（ERAHS）日本事務局アドバイザー
（元国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアプログラムアドバイザー）
永田 明（erahs.japan@gmail.com）



農業は環境に悪影響を及ぼす？

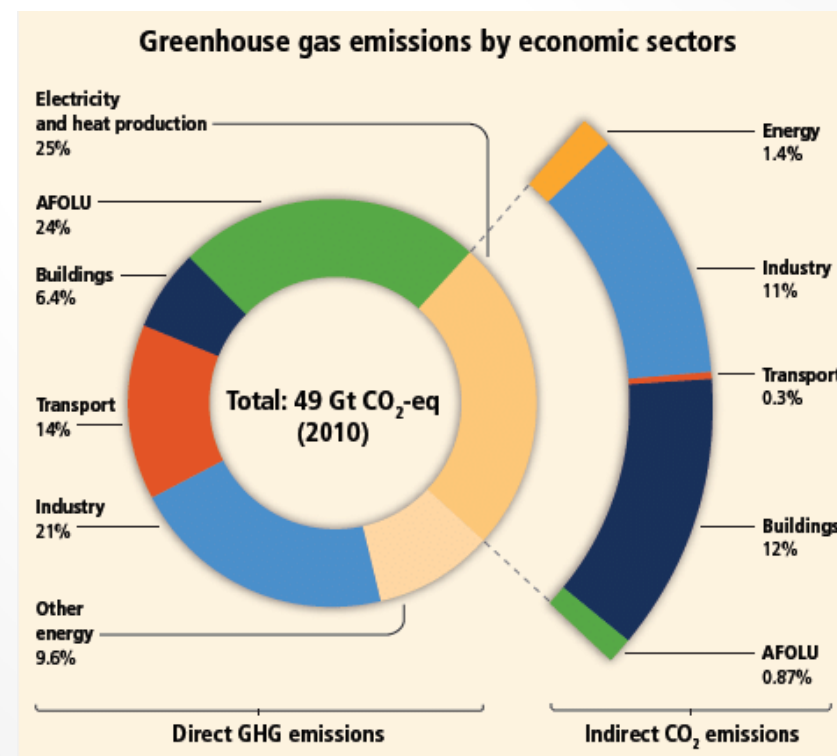
それとも農業は環境を守る？

環境に悪影響を及ぼす農業



森林伐採地(インドネシア)
写真提供：熱帯林行動ネットワーク

気候変動に及ぼす影響：AFOLU（農業、林業、その他土地利用）からの排出が全体の1/4



環境を守る農業

農業の多面的機能



佐渡の棚田

資料:農林水産省

世界の農業生産を支える家族農業

国連「家族農業の10年」（2019-2028年）

- 世界の食料安全保障確保と貧困撲滅に大きな役割を果たしている家族農業について、以下を要請
 - （1）各国が家族農業に係る施策を進めると共にその経験を他国と共有
 - （2）FAO等の国際機関は各国等による活動計画の策定・展開を先導
- 国連食糧農業機関（FAO）によると、家族農業は、開発途上国、先進国ともに、食料生産によって主要な農業形態（世界の食料生産額の8割以上を占める）となっており、社会経済や環境、文化といった側面で重要な役割
- また、彼らは地域のネットワークや文化の中に組み込まれており、多くの農業・非農業の雇用を創出
- 世界では、8.2億人が依然として飢餓に苦しみ、また、極端な貧困層の8割近くが農村地域で暮らし、農業に従事
- このため、農村地域の開発と持続可能な農業に対する資源の投入や、小規模農家、特に女性農業者への支援が、とりわけ農民の生活を改善し、すべての形態の貧困を終わらせる鍵

FAOの世界農業遺産(GIAHS)

次世代に継承すべき重要な農業（林業、水産業を含む）、それに関連する伝統的な農法、農文化、生物多様性、農業景観をシステムとして認定

世界的な（国家的な）重要性

1.食料と
生計の保障



2.農業の生物
多様性



3. 知識
システム



4. 文化
価値観
社会組織



5.ランドスケープ
とシースケープ



アクションプラン

歴史的な
重要性

現代的な
重要性

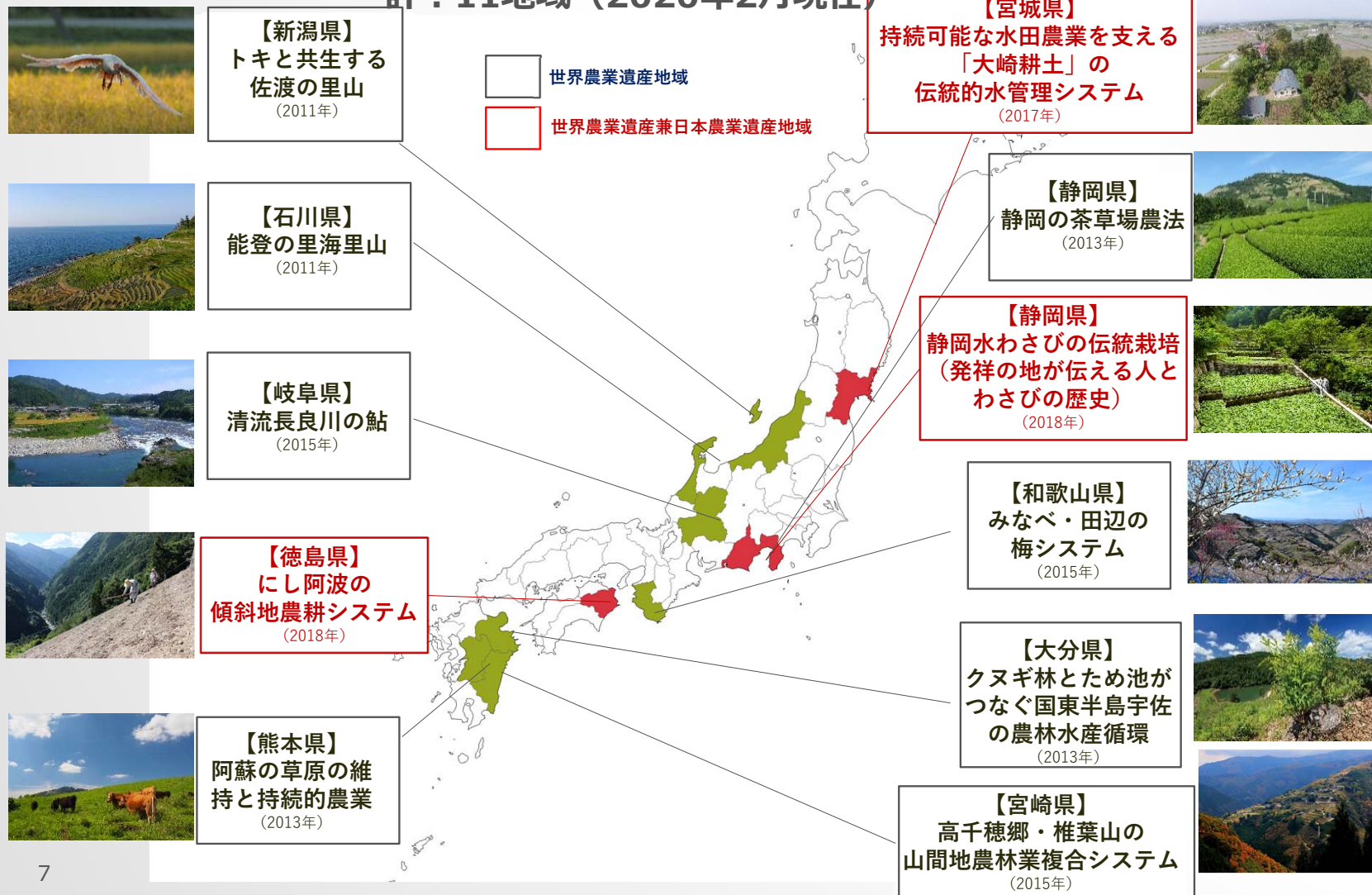
脅威と課題

現行の
推進活動

持続可能性

日本国内の世界農業遺産認定地域

計：11地域（2020年2月現在）



トキと共生する佐渡の里山（2011年認定）

金山の歴史が生み出した棚田などトキの餌場となる水田で、低農薬栽培、冬期湛水など「生きものを育む農法」とその認証制度を推進



資料:農林水産省



2020年1月18日
佐渡現地調査

「ホリスティック」なアプローチの重要性

- 「ホリスティック」(holistic) とは、「全体的な」、あるいは、「総体的な」という意味
- 農業・農村を、生産や生計（経済）の面からだけでなく、生物多様性（環境）、伝統的知識（技術）、文化・価値観・社会組織（文化）、ランドスケープ（土地利用）など、全体的、相対的に評価する「世界農業遺産」は、まさにホリスティックなアプローチを採用
- 人々の食料を安定的に確保し、農家が豊かになるためには、農業の生産性を高めることは不可欠であるが、同時に、「里とともにある日本の農」を次の世代に継承するには、ホリスティックなアプローチが重要